

# 柏西ロータリークラブ

創立：1975年11月 7日

承認：1975年11月24日

## 四つのテスト

1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるか？



## 第1795回通常例会(2013.2.15)

会長：増谷 信一 幹事：升谷 庸

■柏西ロータリークラブURL:<http://kashiwa-nishi-rc.com/>

■第2790地区ロータリークラブURL:<http://www.rid2790.jp/2012/>

### 通常例会

- |         |       |    |
|---------|-------|----|
| 1. 点 鐘  | 増谷 信一 | 会長 |
| 1. 会長挨拶 | 増谷 信一 | 会長 |
| 1. 幹事報告 | 升谷 庸  | 幹事 |
| 1. 卓 話  | 中村 靖  | 会員 |
| 1. 点 鐘  | 増谷 信一 | 会長 |

### 会長挨拶

会長 増谷 信一



皆様、こんにちは。

今日はお忙しい中、榊田様・渋谷様・そして新入会員として本日の卓話をして頂けます、春日や代表取締役の中村様、ようこそ柏西クラブへお越しを下さいました。中村様には、お食事の後に「卓話」をして頂

きますので、宜しくお願い致します。

又、先週お越し頂きました、柏高島屋店長の牧野様が、本日出張の為3月1日の例会日に入会式をさせて頂く事になりましたのでご了承下さい。

さて、先週の日曜日に、柏西・南クラブ合同の「献血キャンペーン」がございました。柏西クラブからは、馬場委員長を始め、中村バスターガバナー・日暮委員長・中嶋会員・松本隆一郎会員・水留会員・升谷幹事そして私の8人で参加をして参りました。当日は、晴れておりましたが、まだ冬の寒さが残っておりました。中嶋会員と私は、血の気が大変多いので400CCの献血をして来ました。このレイソルストラップは、輸血の御礼に頂きましたので、欲しい方にプレゼント致します。

来週の例会は、19日(火)に広池学園のれいたくキャンパスプラザで「第10分区分 合同例会及びIM」が開催されます。そのIMの時間に、柏西ロータリークラブを代表して、水野委員長がフェイスブックをいち早

く、第2790地区において導入した事について発表をして頂きます。当日は、全員登録ですので、一人でも多くのご出席をお願い致します。詳しい内容は、幹事報告で致します。

それでは、恒例の今日は何の日を致します。

◎1877年2月15日(今から136年前) 西南戦争が始まる。又は、西南の役「現在の熊本県・宮崎県・大分県・鹿児島県」において、西郷隆盛が起こした武力反乱です。

◎1955年2月15日(今から58年前) 文部省が、重要無形文化財・指定制度に基づき、日本初の「人間国宝」を認定致しました。

◎1947年2月15日(今から66年前) 逆井村の大きな畑の中で、丸々と太った大変健康な赤ちゃんが生まれました。「日暮肇」会員です。お誕生日おめでとございます。重ねて当日賞、おめでとございます。

以上で、会長報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

### 幹事報告

幹事 升谷 庸

1. ロータリーを通じた人道的奉仕への貢献を称えることを目的とした「ロータリーの配偶者/パートナー奉仕功労者」推薦の依頼(締切2/22)
2. 千葉献血推進協議会より千葉県内400mlの献血量が不足の状況、ロータリアンへの献血協力の依頼  
柏献血ルーム=柏液東口 榎本ビル5階
3. 例会変更のお知らせ  
松戸東RC: 2/22(金)は夜間例会  
柏東RC: 2/21(木)は2/19(火)「第10分区分合同例会及びIM」に振替の為休会  
: 2/28(木)は夜間移動例会
4. 会長エレクト研修セミナー開催の案内  
日時: 3月31日(日) 13:30~  
場所: ホテルニューオータニ幕張

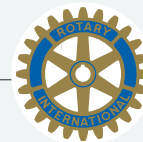
### 入会式



中嶋会員、中村靖 新入会員

例会日/金曜日 12:30~  
例会場/ザ・クレストホテル柏  
〒277-0842 柏市末広町14-1  
TEL.04-7146-1111 FAX.04-7146-2100

事務所/〒277-0011 柏市東上町7-18  
柏商工会議所会館 505  
TEL.04-7162-2323 FAX.04-7166-8282  
E-mail:kashiwanishi@io.ocn.ne.jp



## 清酒・焼酎蔵元の現在

景気低迷を受けた企業の交際費削減・経済のソフト化に伴う重労働の減少・飲酒以外の娯楽の充実に端を発した若者を中心とするアルコール離れといった多様な要因により、酒類の消費は長期に渡って減少を続けている。ワインやリキュールに代表される、ライフスタイルの西洋化による消費量の増加が見られるカテゴリーの中にはあるが、日本の伝統的な酒類（清酒や焼酎といった和酒）はとりわけ顕著な動きを示す。

清酒については、課税移出数量が平成8年以降17年連続で減少となっている。しかし、震災後のこの2年で、業界一丸となった「日本酒情報の発信力」は飛躍的に向上した。流通業者にも消費者にも着実に「日本酒の魅力」は浸透し評価され、中長期的な消費量の減退に歯止めがかかった。

国民に芽生えた復興支援特需や業界が画策する國酒プロジェクトなどのイベントによって高まった注目と関心をいかに継続し拡大できるか。女性や若年層など新規顧客開拓を狙った情報発信の一層の進展が求められる。

もともと、清酒蔵元の経営状況は大変厳しく、欠損企業が多く存在する。酒造りを始めるに当たって原料となる酒米の仕入れは現金であり、多くの蔵元は銀行借り入れによって資金を手当てしている。また、仕込みに不可欠な醸造機械の価格は数千万円単位が普通ととても高価であり、中古品でも高止まりしている状況のため、設備投資に負担がかかる。

米の価格であるが、食用米を例にとるとコシヒカリは1俵60kgとして、18,000円ぐらいから25,000円ぐらいするのだが、酒米はキロ18,000円ぐらいから30,000円ぐらいである。実際にはそれを精米して、大吟醸の場合などは6割を糠として、捨ててしまうので実質は倍以上の値段となる。

酒米が高い理由は、蔵元が予約した分の作付けをせず、間引きをすることにある。例えば、山田錦を10万俵注文出すとすると、9万俵しか作付けしないため、価格が上がる。農家は、食管法で補助金を手にしていながら、値段を釣りあげているのだ。しかし、山田錦は余っているにもかかわらず、値段が下がらない。市場原理を超えた恐るべき力が裏で働いているからだ。

醸造機械の価格も高い。1台当たり数百万円から数千万円くらいするものを何種類も揃えねばならず、仮に全自動にしようと思えば、数億から数十億もかかる。ところが数千万するような機械でも大手重工のエンジニアの

人から見れば、オモチャのように稚拙な出来栄で、どう見ても法外な価格に映るようである。これは、醸造用の機械を製造するメーカーの数が少なく、技術水準が低くても通用してしまうからである。

また清酒産業は、殆どの会社が技術を委託している不思議な業界である。豆腐屋の主人は豆腐をつくれるし、ラーメン屋の主人はラーメンを作れる。しかし、小さな酒蔵は自社に技術を持っていない。それは、杜氏や蔵人といった季節労働者を雇用して、製造してもらっているため、社内に技術が蓄積されないという深刻な問題がある。そのため、杜氏が変わったりすると、全く酒質が変わってしまうという事がよくある。造り酒屋の主人は酒を造れず、言わば杜氏という季節の契約社員が蔵の運命を握っているという異常な状態で経営を行っているのだ。もっとも、最近は小さなメーカーでも、蔵元自ら酒造りをするところが出てきている。杜氏が減少しているばかりでなく、杜氏への給料が払えないところまで、経営が追い詰められていることも理由である。酒蔵の実に7割以上が赤字欠損企業である。

2期連続赤字で銀行が金を貸さない世の中で、3年以上赤字の酒蔵が7割以上なのである。酒米は現金で買わねばならず、余っているのに価格は高止まりして下がらない。醸造用機械は中古品も含めて法外に高い。消費者はますます酒を飲まなくなり、酒は造っても余ってしまい、貯蔵用タンクがあかない。売れずに前年の酒がまだタンクに残っているのに、また新しい酒を造らねばならない。春に酒が出来てもお金に変わっていくのは秋からである。秋に借金したものが、酒となって、換金されるのに1年ほどかかるのである。売れなければ借金だけが残る。経済原理から言えば、経営はとうに成り立たず、本音では閉めたいけれど、歴史ある酒蔵を自分の代で閉めるわけにはいかず、ずるずると先送りしている。それが現状である。なぜ、経営が継続しているのか。それは、ご先祖の代に築いた多額の個人資産を会社に運転資金としてつぎ込み続けているからだ。山を売り、土地を売り、美術品を売り、預金を取り崩して会社を存続させている。自分の代で蔵をつぶすわけにはいかない、その一念で狂気の経営を続け、破綻を先延ばしにしているのだ。しかし、こんな事がいつまでも続くはずもない。つぶれるものは、結局つぶれるのである。子孫にババを引かせるくらいなら、勇気を持って自分の代で自己破産すべきなのだ。

焼酎については、更に厳しい状況である。6~7年前の焼酎ブームの際、芋焼酎を中心としてあらゆるカテゴ



リーの焼酎が注目を集め、消費量は大きく増大し、全国に広く流通され、多くの新規の売場を獲得するに至った。まさに一大ブームとなって、中小も含めて焼酎メーカーは我が世を謳歌したが、栄枯盛衰は世の習い、やがて時が流れ、需要は次第に収まり、あつという間に過剰な流通在庫が露出する事態に陥った。在庫が適正基準に整理されるまでに1~2年を要したが、現在は底打ちし、横ばいのまま変化の時を待っている状況である。かつては、米焼酎と麦焼酎が需要の中心であったが、ブーム以降、芋焼酎が他原料を圧倒している状況であり、麦焼酎がそれに続く。芋焼酎では黒霧島や白波がトップブランドとして絶大な需要を半ば独占している状態であり、麦焼酎の「いいちこ」や「二階堂」がそれに続く。しかし、それ以外の中小蔵は、さほどでもなく、ましてや米焼酎・そば焼酎・黒糖焼酎・泡盛は苦戦している。前述した焼酎ブームの時に、宮崎県や鹿児島県の芋焼酎メーカーは、周囲に唆されたりもして、気が大きくなって、莫大な設備投資をして工場の近代化をしてしまった。しかし、あえなくブームは終わってしまい、組織小売業を中心とする流通も移り気な消費者も一斉にソッポ

を向いてしまった。残ったのは巨額の負債である。数年を経て、これが大きな問題となっている。金融機関から優良企業に向けてこれらの不振企業の身売り話が持ちかけられ、M&Aなどの資本系列化が進展している。今後の需要の推移を考えても長期にわたる低迷が予想され、中小零細企業を中心にますます淘汰が相次ぐと推察される。

酒類業界の今後を展望した時、新たな需要の創出こそが喫緊の課題である。例えば、宮中晩餐会での乾杯の酒はシャンパーニュであり、海外要人は清酒を飲む機会がない。本来は上質な清酒を飲む事を望んでいると推察される。よって政府主導の國酒プロジェクトとして乾杯推進運動を推進していただきたい。

ジャパン・クールという言葉にあるように日本は諸外国から「かっこいい」と言われるようになった。発端は日本の漫画やアニメであるが、今や日本食も知的で洗練されてかっこいい、同じく清酒を飲む事も知的でかっこいいという位置づけになってきたのだ。これからは日本の若者にも、海外事情を理解して頂き、清酒を飲むことはかっこいいと感じてもらいたい。

### 3月の行事予定

■ 3月1日【通常例会】 - お祝い事・理事会 -  
卓話=3分間スピーチ

■ 3月8日(金)【通常例会】  
卓話=Ryla 参加者

■ 3月15日(金)【通常例会】  
外部卓話=手話通訳士 伊丹信子 様

■ 3月22日(金)【通常例会】  
外部卓話=柏市市長 秋山浩樹保 様  
※卓話時間：13:00~13:45 (例会が15分延長となります)

■ 3月29日(金)【移動例会】  
- 職業奉仕・社会奉仕委員会によるバズ視察 -  
”東日本大震災被災地(飯岡)”  
※詳細については後日お知らせいたします

#### 《その他の行事》

◆ 3/1(金)~3/3(日)  
Ryla セミナー(染谷照夫会員・柏さくら幼稚園2名参加)

◆ 3/31(日)  
会長エレクト研修セミナー(勝田健一会員)

#### ニコニコ BOXありがとうございます!

- ★ 結婚記念日  
木村 会員
- ★ (^.^)  
連休の時、沖縄でクジラに会ってきました  
中村(佳) 会員

#### ゲスト

- ★ 渋谷 修
- ★ 榎田 耕一郎

出席報告	
会員数	55名
欠席者	9名
小澤、ゲイビ、後藤、佐藤、杉山、染谷、高田、富士川、水留 各会員	
出席率	78.18%

次回の例会は3月1日(金) 通常例会です。  
クラブ会報委員/東海林 康之・湯浅 千晶・小阪 博司

**欠席報告は、水曜日の正午まで**  
※食事の無駄をなくす為に協力して下さい。  
クレストホテル 04-7146-1111まで

